

# 若者が考える米軍基地

## 県シンポジウム「ゆうちえるさんら登壇」



日本復帰50周年を記念し、県は25日、「若者と考える米軍基地と沖縄の未来」と題したシンポジウムを那覇市ぶんかテンプス館・テンプスホールで開いた。玉城デニー知事やタレントのryuchell（りゆうちえる）さんが登壇し、基地がもたらす生活への影響などについて、若者らを交えて議論した。

ryuchellさんは、普天間飛行場がある宜野湾市で生まれ育った。祖父は米兵。小学生だった2004年、沖縄国際大ヘリ墜落事件で墜落の様子を目の当たりにした。

「ヘリコプターがぐるぐる若者と米軍基地について意見を交わす登壇者」25日、那覇市ぶんかテンプス館

る空で回ってる。みんな路駐して空見上げて、僕たちもつられて見てたら止まって急に落ちた」と明かし、「ここまで平和について考えないといけないときはなかった」と振り返った。

質疑では「日米地位協定はどうすれば改定できるか」「どうやったら基地と共存できるか」といった質問が挙がった。

知事は「これからの時代は誰がつくっていくか、主体は誰になるんだろうか」ということに常に考えを置いてほしい」と話した。

琉球大の山本章子准教授、まちづくりファシリテーターの石垣綾音さん、平和学習講師の仲本和さんらもパネリストを務めた。

（社会部・棚橋咲月）